

石巻市の認定中心市街地活性化基本計画について

宮城県石巻市産業部商工観光課 木村 茂徳

1. はじめに

石巻市は、宮城県北東部の太平洋沿岸に位置しており、平成17年4月に1市6町が合併し、総面積555km²、人口16万5千人の県下第二の都市です。

古くから市域中央部を縦断する旧北上川の河口を中心に港町として栄え、農業、漁業、工業、商業そして観光とバランスの取れた風光明媚な都市でもあります。



金華山



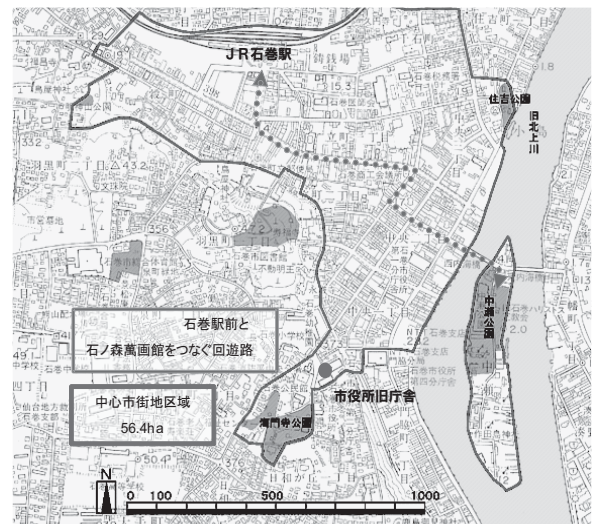
石巻ブランド 金華カツオ

2. 中心市街地の区域

平成11年3月に策定した旧法における基本計画のエリア(50.3ha)をベースに、機能移転した市役所などの公共施設群一体を含む、JR石巻駅南東部(中瀬地区を含む)56.4haを中心市街地として設定しました。



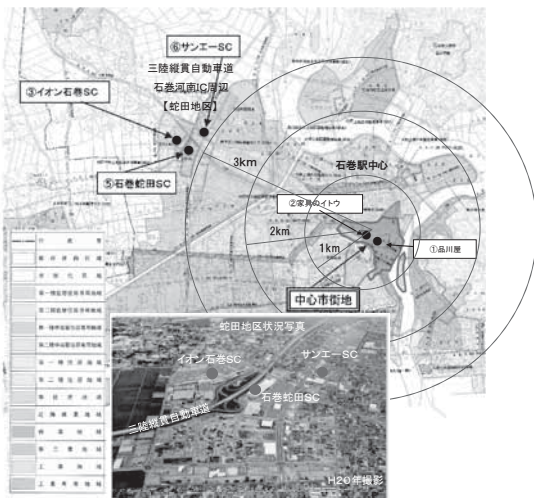
中でも、水産業は、世界三大漁場といわれる金華山漁場が控えており、「金華カツオ」、「金華サバ」など金華ブランドに代表される新鮮で豊富な魚介類を活用した、「食のまち」として観光と結びつけた産業振興を進めております。



3. 中心市街地の現状と課題

本市の中心市街地は、港湾や北上川を活かし、江戸時代から商業、流通の拠点として繁栄してきた歴史があります。しかしながら、昭和50年代から平成の初期には、モータリゼーションの進展により、郊外の道路整備や郊外型の土地区画整理事業が行われ、ロードサイド型の大型店舗の立地が進み、まちなかに空き店舗が増えはじめるようになりました。近年では、三陸縦貫自動車道の石巻河南インターチェンジ周辺の土地区画整理事業が進み、3万m²を越える郊外型大型店が進出するなど、1市23町（旧市町ベース）を包括する広域商業圏が形成されています。このような背景のなか、中心市街地はシャッターを下ろしたままの店舗や、空き地を利用した駐車場が多くなり、休日でも買い物客が少ないなど、商業活力の低下が目立っており、平成20年4月には、駅前の市内唯一の「さくら野百貨店」が閉店するに至っております。

こうした状況を踏まえ、中心市街地活性化に向けた課題を次の3つに整理しました。



進む郊外大型店の進出



中心商店街のシャッター通り

(1) 石巻、中心市街地の魅力が十分に活かされていない

JR石巻駅前に立地している旧さくら野百貨店(現市役所)、石巻健康センター(あいプラザ・石巻)等の有効活用による事業の推進が求められている。

現在も「萬画」をテーマとしたまちづくりを進めており、イメージは定着しつつあるものの、石ノ森萬画館の展示内容の固定化などにより、入館数及び観光客入り込み数は減少傾向にあることから、「萬画」による中心市街地の再興が求められている。

港町であり海産物も多く水揚げされ、また海産物を使った加工品も多く生産されているが、それらを中心市街地で買ったり、食べたりできる場所は限られており、「食」を活かした特色づくりが必要である。

(2) 商業活力の停滞と中心市街地を訪れる人、歩く人が少なくなっている

石巻駅前のさくら野百貨店の閉店や郊外の大規模店舗の拡大などにより、中心市街地の商店数、販売額などは減少傾向にあり、商業活力が停滞している。

商店街には空き店舗や低未利用地が多く見られ、新たな店舗の誘致や就業者の育成、イベントの開催など中心市街地の魅力づくりが必要である。

石巻駅前は、鉄道からの中心市街地へのアクセス、バスへの乗り換えなどの交通拠点となっているが、歩行者と車の動線が錯綜し、快適に利用できる環境とは言えない状況から旧さくら野百貨店舗の活用に合わせた、駅前空間の利用しやすさ、アクセス性の向上が求められている。

本市及び中心市街地の特徴である「萬画」「食」を活かし、JR石巻駅から石ノ森萬画館などを楽しく回遊するための取組みが求められている。

アンケート調査でも、「駐車場が利用しにくい」「買いたい商品がない」「気軽に店に入りにくい」「ゆっくり買い物できない」などの市民の要望があることから、来街者を呼び込みもてなすサービスや品揃え、トイレや休憩場などの施設が不足していることから、高齢者でも利用しやすいニーズに応じた取組みが求められる。

(3) 高齢化の進展とともに、中心市街地に住む人が少なくなっている

中心市街地内の人口は一貫して減少し、高齢化も

進展している。これにより、中心市街地の賑わいを失うだけでなく、安全や安心を支える地域コミュニティが維持できなくなる恐れがあることから、多様な世代の定住による人口の回復が求められる。

中心市街地の人口減少を食い止め、さらに定住人口を呼び込むためには、住居や商業機能だけでなく、福祉や文化、レクリエーション、交通などの多様な都市機能の充実と集積による、歩いて快適に暮らせるコンパクトなまちづくりが求められている。

4. 中心市街地活性化の基本方針と数値目標

＜中心市街地活性化基本計画の目指す「まち」の姿＞
 彩り豊かな食と萬画のまち
 (市庁舎機能移転を契機とした市民との協働による中心市街地活性化)

＜中心市街地活性化基本計画のコンセプト＞
 多様な都市機能を集積し、高齢化社会に対応した、
 歩いて暮らせるコンパクトなまちづくり

この基本コンセプトを標榜しつつ、中心市街地活性化に向けて整理した3つの課題に各々対応すべく、石巻市中心市街地再生への3つの基本方針及び数値目標を設定する。

【基本方針1】

「萬画」「食・健康」「交流」による賑わいのあるまちづくり

○目標1 集客施設による賑わい

3拠点施設の利用者数

(3拠点施設：市役所、あいプラザ・石巻、石ノ森萬画館)

現況値(平成20年度) 698,118人

↓

目標値(平成26年度) 963,696人

【基本方針2】

石巻の良さを凝縮した中心市街地を楽しく回遊させるまちづくり

○目標2 回遊する人による賑わい

歩行者・自転車通行量

中心市街地内：12調査地点(平日・休日平均)

現況値(平成20年度) 18,129人

↓

目標値(平成26年度) 19,096人

○目標2-1 商店街の活力による賑わいづくり(参考指標)

空き店舗数

現況値(平成20年度) 51店

↓

目標値(平成26年度) 37店

【基本方針3】

安心して住み続けることのできるまちづくり

○目標3 住む人による賑わい

定住人口

現況値(平成21年度) 3,176人

↓

目標値(平成26年度) 3,186人

5. 中心市街地活性化のための主な事業

新庁舎移転・整備

本市の玄関口である駅前の「旧さくら野ビル」空きフロアに市庁舎を移転再生。

併せて、市民ホール、市民サロン等の交流スペースを設け、活性化のきっかけとする。



空きビルの再生



市民サロン

あいプラザ・石巻(旧ペアーレ)再活用

市が撤退予定であった健康増進施設を取得、子育て支援の機能を付加する等に再活用し利用者増加を図る。



石ノ森萬画館リニューアル
石ノ森萬画館をリニューアルし、リピーターの来訪を促す。



石ノ森萬画館



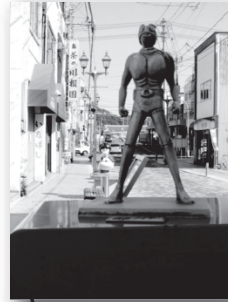
子育ての充実

道路（仮称：食彩通り）整備

マンガロードと連携させ、地元石巻の製品を使った飲食店が集積している食彩通りを整備。

マンガロード＝石巻駅前から石ノ森萬画館までの回遊路をはじめとしたいくつかの通りに石ノ森キャラクターのモニュメント等を設置し、マンガロードとして整備。

中心市街地の石巻駅から石ノ森萬画館を結ぶマンガロードと遊歩道テラス



歩く楽しさ



まちなか賑わい交流拠点施設
回遊路沿いの空き店舗を活用し、石巻の歴史等を
紹介する交流拠点施設を整備。
観光客の来場、市民の交流促進を図る。

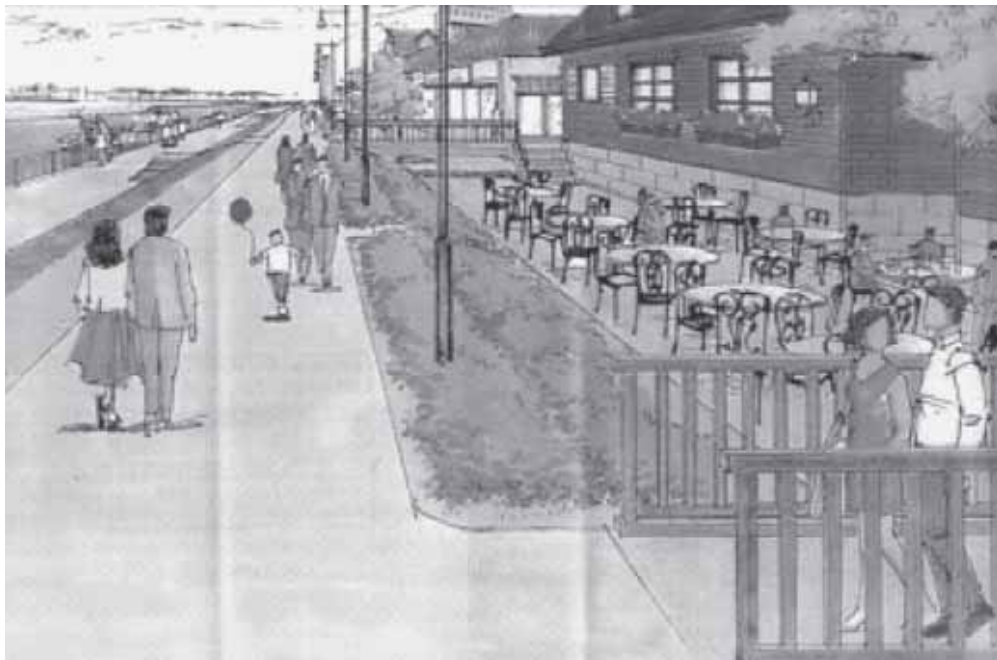
まちなか広場の整備
石ノ森萬画館に至るマンガロードの中心部分にま
ちなか広場を設置。

駅周辺整備
駅前在市庁舎が移転することに併せ、自転車置場
や一般車両の駐車帯を整備。また、植栽・パーゴラ
等を整備し、空間の魅力を向上。

川を活かしたまちづくり
旧丸光ビルの解体、旧北上川堤防整備等の河川改
修と併せて、カフェや旬鮮市場等の整備を検討。

6. おわりに

本市の中心市街地活性化基本計画は、平成 22 年
3 月 23 日に内閣総理大臣の認定を受けましたが、同
日に新庁舎への移転が完了し業務が開始され、中心
市街地の活性化に向け、本当に良いスタートを切っ
たところですが、まだまだ課題は山積みであります。中
心市街地活性化協議会を中心に市民の皆様、民間
事業主体、行政が連携して、郊外とは違った賑わい
の創出を図ることで、地域に住む人々が「まちなか
が大好き」と思えるように、石巻の良さを最大限に
活用し、基本計画に掲げた「彩り豊かな食と萬画の
まち」の実現に向け、鋭意努力してまいります。
(きむら しげのり)



オープンカフェイメージ